

地域性（文化・価値観）への理解を深める 茨城大学図書館の「新聞マルシェ」事業

目的・趣旨 |

平成 26 年 4 月にリニューアルオープンした茨城大学図書館本館（水戸キャンパス）は、本学の方針を受ける形で「地域社会との共生」を新図書館のコンセプトとして掲げ、大学の顔としての活動を行っています。リニューアル後の新たな取組として、全国の地方紙 14 誌（写真 1）（表 1）を配架した新聞マルシェ事業を展開しています。大学図書館では、全国紙に加えて地元の地方紙を提供することは一般的ですが、他地域におよぶ地方紙を多く提供する事業は、全国において初の取組です。

地方で起きていることは、日本全体の政治や経済の動き、さらに世界がいま直面している問題と直接つながっており、地方紙は地方の情報を最も早く報道し、地元からの視点を大切にしています。新聞マルシェ事業は、世界的な視野と地域特有の視点からニュースを発信している地方紙を日常的に読み、また、読み比べることで、地方紙を利用する学生が「地域」を広くとらえ、地域性（文化・価値観）や言論の多様性への理解を深めてもらう場となることを目的としています。



写真1 新聞マルシェ全景

表 1 新聞一覧

H28.8.1 現在

	新聞名	発行県名
1	東奥日報	青森県
2	デーリー東北	青森県
3	岩手日報	岩手県
4	秋田魁新報	秋田県
5	河北新報	宮城県
6	福島民報	福島県
7	福島民友	福島県
8	茨城新聞	茨城県
9	下野新聞	栃木県
10	上毛新聞	群馬県
11	神奈川新聞	神奈川県
12	山梨日日新聞	山梨県
13	沖縄タイムズ	沖縄県
14	琉球新報	沖縄県

実施内容 |

新聞マルシェ事業は、地元の茨城新聞社と本学の社会連携センター、図書館が連携して実施しており、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の一部としても位置付けています。

連携する機関の役割分担は以下のとおりです。茨城新聞社は、各地方紙の提供（寄贈）に係わる交渉、社会連携センターは、地方紙の郵送料等の負担、図書館は、地方紙の選定、配架、閲覧スペースの管理運用を行い、新聞マルシェを素材にしたシンポジウムの企画運用、利用者の実態調査などを担っています。

地方紙は、原子力発電問題や米軍基地問題など特色ある紙面づくりをしている福島県や沖縄県のもののほか、茨城県に隣接する本学の学生の出身県のものを中心に選定しています。

なお、新聞は各新聞社からの寄贈によるもので、郵送料のみ本学負担で、翌日には配架しています。

表 2 新聞マルシェシンポジウム開催実績

H28.8.1 現在

開催日	企画名	参加者数
平成 26 年 12 月 17 日(水)	新聞マルシェ オープニング・シンポジウム ～伝え続ける！茨城／4 年目を迎えた震災～	60
平成 27 年 6 月 24 日(水)	新聞マルシェ 平成 27 年度シンポジウム ～地方新聞の使命 戦後 70 年を踏まえて～	85
平成 28 年 1 月 13 日(水)	新聞マルシェ 第 3 回シンポジウム ～茨大出身の若手記者が語る 地方新聞の現場、未来への想い～	70

実施成果 |

新聞マルシェを素材にして、シンポジウム(表 2)を開催しています。これまで 3 回開催し、参加者は 215 人に上っています。シンポジウムは、図書館をはじめ、連携する機関が学生と共同で企画し、司会を学生が務めるなど、学生が積極的に関わっています。

平成 26 年 12 月 17 日のオープニングセレモニー(写真 2)に続けて開催された第 1 回シンポジウムは、マスコミ学を学ぶ学生が中心となって企画しました。3.11 東日本大震災で甚大な被害を受けながらも震災に向き合い、発震直後から絶えることなく新聞を発行しつづけた茨城新聞社の記者たちの苦悩と実際に報道現場で起こっていた出来事が語られ、災害時に新聞が発揮した力、災害報道の課題等について、参加者が活発に議論を交わしました。

また、第 3 回のシンポジウム(写真 3)では、新聞記者として活躍している本学の卒業生を招き、地方紙の役割についてパネルディスカッションを行いました。その後、卒業生が勤める新聞社の地方紙 2 紙が新聞マルシェに加わり、在学生の興味を喚起しました。

新聞マルシェでは、当初の期待どおりに新聞を読み比べたり、地方紙を熱心に読む学生の姿が見られます。利用する学生からは、「全国紙も読みますが、出身が福島県なので、読み慣れ

た地元の新聞を見に来ます。地元の事が気になります。」「地方紙によって記事の扱いが違うことがわかりました。」などの意見が寄せられています。

なお、平成 27 年 4 月からは地域を多面的にとらえる力を養う学部 1 年次の必須科目「茨城学」も開設され、アクティブ・ラーニングを通じて地域の課題を学ぶ中で、地方紙の情報が有効に活用されています。

今後の展開・課題 |

本学は、COC や COC+の採択など地域の社会的な課題の解決に貢献する組織として期待されています。新聞マルシェの事業が学生への地方紙の情報提供に留まらず、現実社会と向き合い課題を見出す力、課題解決の提案力や新たな地域の魅力を引き出す力を育むための材料として、広く授業等における活用を促進するような、新たな事業展開を図りたいと考えています。平成 28 年度は利用者アンケートを実施して利用状況を明らかにし、今後の活動に活かしていく予定です。

連絡先 |

茨城大学図書館

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

TEL: 029-228-8552



写真2 オープニングセレモニー



写真3 第3回シンポジウム